

西部小通信2月②フェニックス

公開授業

17日(日)学習発表会の日の午前中に実施しました。今回は「熊本の心」という道徳教育用郷土資料を使った授業でした。

『熊本の心』というのは、そもそも熊本県が提唱した「助けあい、励ましあい、志高く」という、心豊かで潤いに満ちた郷土熊本を築いていくために県民一人一人が持ちたい心のことで、日常生活の中で心のあり方としてお互いに相手を尊重し、協働・共有の相互扶助、志高くの心を持ちながら主体的に明日に向かって生きていく精神のことを表しています。

これを道徳の時間に身に付けることをめざして作られた道徳教育用郷土資料も、その名称を「熊本の心」にしているのです。箱根駅伝の父・金栗四三、昭和の言論界をリードした徳富蘇峰など、誇れる先達をたくさん輩出した私たちの故郷・熊本が育んだ偉人の伝記や昔話をまとめた本となっています。どのような授業で、何を学んだのか、是非お家でも尋ねてみてください。



学習発表会

同じ日の午後実施いたしました。たくさんのご来賓や祖父母の方々にもお越しいた



だき、3年以上の北部音楽会発表曲、1・2年の「ほくたち・わたしたちの1年間」、3・4年の「西部の宝人」、5・6年の「英語劇：浦島太郎」、全校での手話付きの「365日の紙飛行機」、どれも練習の成果を存分に発表することができまし



た。西部っ子がふるさとに誇りをもち、明るく優しく強く育ち、伸びま



すようどうぞこれからも温かいご声援のほど、お願い申し上げます。

馬頭琴

2年生の国語に『スーホの白い馬』という物語教材があります。本校の児童に毎年手話を教えてくださる篠原利夫先生が馬頭琴を所持しておられるということで、



学習発表会にお招きした際にお問い合わせしたところ、休み明けの19日(火)に早速お持ちくださいました。私も授業した経験がありますが実物は初めて見ました。本物を目にした1・2年生の子供たちからは歓声が上がりました。20年程前から7年間、年に1回ボランティアで内モンゴルに植樹に行っておられた時に、製造されている所をご覧になってお求めになったのだそうです。大切な品を快くお貸しくださったことに深く感謝いたします。